

資料室便り

交通の専門図書館 交通経済研究所資料室

■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）



『30年先を見据えた交通計画』

土木計画学研究委員会編
土木学会発行
2025年3月／2,310円（税込）
所蔵箇所：信濃町

本書は、土木計画学研究委員会研究小委員会「新しいモビリティサービスやモビリティツールの展開を前提とした交通計画論の包括的研究小委員会」（仮称：新ブキャナン）のメンバーを中心に執筆されたものである。人口減少や高齢化，地球温暖化といった社会課題に加え，新技術や新サービスの登場による不確実な未来を背景に，従来の交通計画の手法では予測できない30年後の交通を考える一冊になっている。

巻末の座談会では，こうした課題に対し従来の計画手法では対応しきれない限界があると指摘。交通とまちづくりの一体化や地域間の連携強化，制度改革の必要性が議論された。特に，これまで民間に依存してきた日本の公共交通については，行政の役割を明確にして責任を持って関与することが重要としている。また，ビッグデータなどの新たな情報資源を活用した柔軟な計画技術への転換や，運輸連合のような事業者間の連携強化による一元的な運賃制度やダイヤ構築，さらに法的・財政的に自立した事業体による責任ある運営体制の構築が重要であるとまとめている。（原）

■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

『東京駅誕生

—お雇い外国人バルツァーの論文発見』

島秀雄編
鹿島出版会発行
1990年6月
所蔵箇所：上野（一般公開中）

特集に関連して，世界有数の鉄道ターミナルのひとつである東京駅に関する図書を紹介する。

本書は，1900年前後に鉄道技術指導のためにドイツから日本に派遣された技師フランツ・バルツァーの論文が，編者の手元で発見されたことから刊行に至った。内容は，「バルツァー論文の発見」，「論文『東京の高架鉄道』」，「東京駅を中心とした鉄道建設・改良の変遷」，「バルツァーとその時代の鉄道人」，「本が出るまでのいきさつ」の5部からなる。「東京の高架鉄道」は，バルツァーがドイツへの帰国後に『ドイツ技術者協会誌』上で発表した（1903年12月）。同論文においては，新橋～上野間を高架鉄道で結ぶことが提案されているほか，中央停車場（東京駅）の設置に関する構想も提示されている。東京駅については，頭端式ではなく，スルー方式の採用を強調している。こうした構想は，現在の東京駅を中心とした鉄道のネットワークとほぼ一致している。

資料室は，東京駅をはじめとする駅やターミナルに関連する多数の図書を所蔵している。ぜひご利用いただきたい。（土方）

資料室からのご案内

蔵書オンライン検索，新着図書・雑誌の情報，月別新着図書目録，所蔵社史・年史のリストなどは，資料室HP（<https://www.itej.or.jp/about>）をご覧ください。

担当：古森崇史，原祥太，土方規義，田邊由佳

